

【研究報告】

課題からみた中国語オンライン授業の問題点

白方直美

Abstract

2020 School Year. In order to combat the spread of COVID-19, Rikkyo university held foreign language classes online using Zoom throughout the year. For Chinese language classes, class instructors held two classes per week for each class during the fall semester. Grades were determined by having students submit both written and voice-recording assignments created each time by the Chinese Language Program. The authors analyzed essays and other written assignments from the fall semester and investigated areas in which student performance was lacking. Based on this discussion, we offer suggestions for how online classes can be conducted more effectively.

Keywords: *Online classes Chinese language Written assignments Poor achievement Effective*

0 はじめに

立教大学では2020年度新型コロナウイルス感染防止の観点から、外国語科目においてZOOMを使用したオンライン授業がおこなわれた。立教大学の第二外国語は1年間必修、週2回授業がおこなわれる。中国語については、春学期は教育講師が自分の担当クラスとは関係なく複数クラスの授業を担当し、秋学期は各クラスの担当者が自分のクラスの授業をおこなうという形式をとった。学生は、春学期も秋学期も毎回授業後に中国語教育研究室が作成した録音課題と筆記課題の提出が求められ、各クラスの担当者が課題を採点して成績評価した。そのため春学期は、授業実施者と課題採点者が異なる場合がほとんどであった。秋学期は各クラスの担当者が授業と課題評価の両方を担当したので、この矛盾は解消された。筆者は、自分が担当した秋学期3クラス約90名の筆記課題のうち作文問題を中心にその誤答を分析し、特に中国語学習の基礎段階において必須でありながら習得できていない部分について考察した。

1 課題の構成と作文正答率

中国語の筆記課題は、中国語教育研究室が、全学統一で使用している教科書『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』の教授用資料付属の選択形式の小テストと、教科書の各課ドリルの作文問題を参考に作成した。問題A～Dは選択問題で配点各1点、問題E～Gが作文で各2点、合計10点とした。作文の採点は、句読点と簡体字のミスがそれぞれマイナス1点、それ以外の間違いはマイナス2点という基準が示された¹。この基準に従って採点した秋学期全12課の筆記課題の結果、筆者担当の3クラスで正答率が低かったものを順に表1に示す。

1 基準は中国語教育研究室主任が指示。

表1
筆記課題作文の正答率

課	設問	問題	解答例	正答率 (%)
6	E	あなたは英語の歌を歌うのが本当にお上手ですね。—いえいえ、あなたの方がずっと上手です。	你英文歌唱得真好。—哪里哪里、你比我(唱得)好多了。	7.78
7	E	今日の夕飯は麻婆豆腐が食べたい?それとも青椒肉絲が食べたい?	今天晚上饭你想吃麻婆豆腐还是想吃青椒肉丝?	15.56
2	G	大学の向かいの寿司屋は高いし、美味しくないです。	大学対面の寿司店又贵又不好吃。	20.43
4	F	私の専攻は中国語なので、毎日10回本文を読まなければなりません。	(因为)我的专业是汉语、所以每天(都)要读十遍课文。	20.88
6	G	彼女は小さい時から日本のアニメを見て、いま日本語を話すのが非常に流暢です。	她从小就看日本的动画片、现在日语说得非常流利。	21.11
10	F	誕生日プレゼントは家に持ち帰ってきました。	生日礼物带回家来了。	22.09
5	G	あなたたちの学校は駅からどれくらい遠いですか。—500メートルくらいです。	你们学校离车站多远?—五百米左右。	23.08
3	G	田中さんは明日の午前、大学に中国語の授業を受けに行く。	田中明天上午去大学上汉语课。	30.43
12	F	弟は雨にぬれて風邪をひきました。彼は今日、バイトしに行けなくなりました。	弟弟被雨淋感冒了。他今天不能去打工了。	31.11
12	G	子どもは学校のパソコンを壊してしまったので、先生に叱られました。	孩子把学校的电脑弄坏了、所以被老师批评了。	31.11

2 語彙の問題

正答率が低かった課題について誤答個所を分析していくと、誤った語彙の使用が少なくないことがわかった。

2.1 「英語の歌」

正答率が最も低かった第6課E「あなたは英語の歌を歌うのが本当にお上手ですね(你英文歌唱得真好)」の「英語の歌」の中国語は“英文歌”である。“英語”は春学期に使用した教科書『協同学習で学ぶ中国語ビギニング』(以下、『ビギニング』)第8課に初出であるが、“英文”は『ビギニング』にも秋学期の『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』(以下、『ステップアップ』)にも掲載されていない。『ステップアップ』第6課に“你中文歌唱得怎么样(あなたは中国語の歌を歌うのはどうですか²)?”という例文があるが³、この例文から推察して“英文歌”を解答するのはなかなか困難である。そのためか、“英語歌”の解答が57.8%“英語の歌”の解答が6.7%あった。“英文歌”と解答したのはほぼ5分の1にあたる22.2%にすぎなかった。文字で書かれた中国語や英語を指す時は“中文”や“英文”を用いる⁴。「中国語の歌」や「英語の歌」は、歌詞がその言語の文字で書かれたものであるから、“中文歌”、“英文歌”というべきである。「中国語」を表す“汉语”は『ビギニング』第6課、“中文”は『ビギニング』第10課に初出なので、“中文”を学ぶ第10課で“汉语”との使い分けに言及するのがいい。そうすれば“中文书(中国語の本)”、“中文小说(中

2 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』教授用資料p12の日本語訳を引用

3 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p33

4 杉野元子・黄漢青著『大学生のための初級中国語40回』教授用資料p115

国語の小説) ”、“中文报 (中国語新聞)”などのことばを正しく使うことができる。

2.2 回数表現

動作の回数を表す「～回」は中国語には複数あり、それぞれに使い分けがある。第4課F「毎日10回本文を読まなければならない (每天都要读十遍课文)。」の「10回」は、最初から最後まで全プロセスで1回を表す“遍”を使わなければならない。しかし“十遍”と正しく解答したのは60.4%、“十次”が25.3%、“十回”が6.6%あった。回数表現については、『ステップアップ』第4課の本文に“大概两、三次吧。(ネットショッピングは週にたぶん2、3回かな)”とある⁵。また同じ第4課の文法表現の例文“今天你读了几遍课文 (今日あなたは何回教科書の本文を読みましたか) ? ”⁶に“遍”が使われている。本文だけではなく、この例文及び教員の解説をしっかり学習していれば、この間違いは生じなかったように思う。

2.3 方位詞+名詞

第2課G「大学の向かいの寿司屋」は「方位詞+名詞」であるが、方位詞が修飾語になって名詞を修飾する時、方位詞と修飾を受ける名詞の間にはふつう“的”を入れて「方位詞+“的”+名詞」としなければならない⁷。そのため、「大学の向かいの寿司屋」は“大学対面的寿司店”となる。しかしこの“的”がなく、“大学対面 (一家) 寿司店”と解答したのが半数近い45.2%にのぼった。方位詞は『ビギニング』第9課で学習するが、名詞と方位詞を組み合わせる例は“桌子上 (机の上)”とドリルの作文問題に“上海火车站后面 (上海駅の裏側)”があるだけなので、第9課で方位詞を学習する時に、「名詞+方位詞」と「方位詞+“的”+名詞」について詳しく説明する必要がある。

2.4 時間詞

第3課G「田中さんは明日の午前、大学に中国語の授業を受けに行く (田中明天上午去大学上汉语课。)」の「明日の午前 (明天上午)」を“明天早上 (明日の朝)”と解答したのが9.8%、“明天下午 (明日の午後)”の解答が4.4%あった。いずれも『ビギニング』第1課の最初のあいさつで学ぶものであるが、一部習得できていないことが分かる。

2.5 呼称「～君」、「～さん」

中国では親しい人を呼ぶ時、フルネームまたは漢字1字の姓の前に“小”や“老”をつけて呼ぶのが一般的である。第1課F「劉君はアメリカ映画をたくさん見たことはあるが、日本映画は見たことがない (小刘看过很多美国电影、可是没看过日本电影)。」の解答で、「劉君」を“刘”と訳したのが15.2%、日本語をまねて“刘君”と訳したのが7.6%あった。“小刘”と正解したのはほぼ半数の47.9%、日本語漢字を書いた“小劉”が16.0%あった。この項目は『ビギニング』第8課の例文“小王 (王君)”に初出であるが、教科書には説明がない。そのため『ビギニング』第8課を学習する際に授業担当者が説明しなければならないところであった。一方第3課Gで日本人の「田中さん」を“小田中”と書いた解答が7例 (7.6%) あった。

2.6 親族呼称

“爸爸 (父)”、“妈妈 (母)”、“哥哥 (兄)”、“姐姐 (姉)”、“弟弟 (弟)”、“妹妹 (妹)”といった親族呼称

5 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p24

6 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p25

7 『現代中国語文法総覧』くろしお出版社 p45 『外国人学汉语难点释疑』北京语言大学出版社 p71

は基本語彙であるが、一部に混乱が見られた。第5課E「兄は父より2センチ背が高く、私は兄よりさらに高いです（哥哥比爸爸高两公分、我比哥哥还高）。」では、“爸爸（父）”を“父”と解答したのが4例（4.4%）あった。“儿子（息子）”は『ステップアップ』第10課に出ており、第10課E「彼は彼の息子にカメラを1台買ってあげました（他给他儿子买了一台照相机）。」では“儿子”の間違いはなかったが、第11課E「お母さんは息子にゲームをさせず、宿題を書かせます（妈妈不让儿子玩儿游戏、让儿子写作业）。」で「息子」を“儿子（息子）”ではなく“孩子（子ども）”と訳したのが27.5%あった。また第12課F「弟は雨にぬれて風邪をひきました（弟弟被雨淋感冒了）。」では“弟弟（弟）”を“弟々”と書いたのが2例、“哥哥（兄）”が1例あった。『ビギニング』第4課は家族紹介を中心に学ぶが、“弟弟（弟）”、“兄弟姐妹（兄弟姊妹）”、ひいては「祖父母」などの語彙が抜けており、親族呼称をまとめて覚える機会がなかったように思われる。一部は補充単語で補填したが、親族呼称は一度にまとめて教授して単語テストなどを実施することにより、学習の初期段階で定着を図るべきであると思う。

2.7 「教える」の“告诉”と“教”

中国語の“教”は知識や技能など人に伝える意味での「教える」、一方“告诉”は意志や情報を伝える意味での「教える」である。第8課F「あなたにひとつ良い情報を教えてあげる（我告诉你一个好消息）。」は「情報の伝達」なので、“告诉”を使わなければならないところを“教”を使って解答したものが22.4%あった。日本語では同じ「教える」でも、中国語は「何を教えるか」によって異なる動詞を使うことをしっかり教えるべきである。

2.8 “二”と“两”

中国語では数「2」を表現するのに、主に序数を表す“二”と、数量を表す“两”があり、厳格な使い分けが求められる。今回の課題で「2」に関する表現は第1課E「昨日私はリンゴを2つ買いましたが、今日は買いませんでした（昨天我买了两个苹果、可是今天没买）。」、第4課E「私はアメリカ文化に夢中で、最近毎日2時間半アメリカ音楽を聞きます（我迷上了美国文化、最近每天都听两个半小时美国音乐）。」、第5課E「兄は父より2センチ背が高く、私は兄よりさらに高いです（哥哥比爸爸高两公分、我比哥哥还高）。」が出題された。いずれも“两”を使用せねばならず、それぞれ“两个苹果（リンゴ2個）”、“两个半小时（2時間半）”、“两公分”または“两厘米（2センチ）”が正しい答えである。

表2

「2」を表す“两”の解答

第1課E		第4課E		第5課E	
两个苹果（リンゴ2個）		两个半小时（2時間半）		两公分 / 两厘米（2センチ）	
两个苹果	81 (86.2%)	两个半小时	79 (86.8%) ⁸	两公分	60 (65.9%)
2个苹果	1 (1.1%)			二公分	14 (15.4%)
二个苹果	5 (5.3%)			2公分	9 (9.9%)
二斤苹果	2 (2.1%)			两厘米	3 (3.3%)
				二厘米	1 (1.1%)
				2厘米	1 (1.1%)

上記の結果より、“两”については比較的良好に習得できていると思うが、正答が100%になるよう徹底する必要がある。

8 100%でないのは、“两个小时”、“两个小时半”、“两个半小时”などの解答があったからである。

3 文法の問題

3.1 連体修飾語を導く助詞“的”

中国語では、人称代名詞が親族呼称や所属機関を修飾する時、日本語の「～の」に相当する“的”はふつう用いない。

第5課G「あなたたちの学校」は“你们学校”であるが、“你们的学校”59例(64.8%)、“您的学校”2例(2.2%)、“你的学校”5例(5.5%)あり、“你们学校”と正解したのは約4分の1の23例(25.3%)だった。また第4課Eで「彼の息子(他儿子)」を“他的儿子”としたのが46例(53.5%)、第2課F「私の故郷(我老家)」を“我的老家(家乡)”としたのが31例(31.3%)あり、“的”の省略が未習得であることがわかる。

逆に、“的”が必要な場合に“的”が使用されていなかった解答例もある。第12課G「学校のパソコン」を“学校电脑”が11(12.2%)、第2課G「大学の向かいの寿司屋」を“大学对面寿司店”が42(45.2%)あった。

“的”については、『ビギニング』第5課の文法表現で学習するが、上述の“的”の省略について教科書の説明がなかったために、誤答が多かったと考えられる。春学期の第5課で文法を教える時に、“的”の省略についてしっかり補充して説明すべきであると思う。

3.2 前置詞“从(～から)”⁹

前置詞“从”は動作の時間や場所の起点を導く、非常によく使われる前置詞の一つである。第3課Eは、“是

表3
第3課Eの誤答記述一覧

誤答例	「～から来た」の表現	解答数(%)
不是从美国来的、从加拿大来的 不是从美国来、她是从加拿大来 不是从美国来、是从加拿大来的 不是从美国来、从加拿大来的	从美国来、从加拿大来	5 (5.4)
跟是从美国来的不一样、是从加拿大来的		1 (1.1)
不是从美国来的、是从加拿大(的)	从美国来、从加拿大	3 (3.3)
不是从美国的、是从加拿大来的	从美国、从加拿大来	1 (1.1)
从美国不来、从加拿大来的	从美国不来、从加拿大来	1 (1.1)
不是从美国、是从加拿大(来的)	从美国、从加拿大(来的)	2 (2.2)
不是从中国来的、她是从美国来的	从中国来、从美国来	1 (1.1)
不是来自美国、(而)是来自加拿大	来自美国、来自加拿大 ⁹	5 (5.4)
不是来自美国、她是来加拿大	来自美国、来加拿大	1 (1.1)
不是来美国、(她)是来加拿大 不来美国、是来加拿大的	来美国、来加拿大	10 (10.9)
不是美国来的、是加拿大来的	美国来、加拿大来	2 (2.2)
不是从来美国、是从来加拿大	从来美国、从来加拿大	3 (3.3)
不是跟来美国的、是跟来加拿大的	跟来美国、跟来加拿大	3 (3.3)
不是跟美国来的、是跟加拿大来的	跟美国来、跟加拿大来	1 (1.1)
不是来从美国、是来从加拿大	来从美国、来从加拿大	1 (1.1)
不来从美国、来从加拿大	不来从美国、来从加拿大	1 (1.1)
不是美国人、是加拿大人	不是美国人、是加拿大人	1 (1.1)

9 “来自”は正しい解答であるが、教科書で学んでいないので、不正解に分類した。

～的”構文と絡めて、「彼女はアメリカから来たのではなく、カナダから来たのです。」という作文が出題されたが、“她不是从美国来的、(而) 是从加拿大来的。”と完全に正しく解答できたのは半数足らずの47.8%だった。“从～来”の部分だけ見ても、表3のように様々なパターンの誤答があり、定着できていないことが分かる。『ステップアップ』第3課に“他不是从中国来的 (彼は中国から来たのではない)。”¹⁰ という例文があり、これが習得できていれば間違えることはないのであるが、前置詞“从”の重要性やこれだけ多様な間違いがあることを考えると、“从”を独立した文法項目を立てて教える必要があると思われる。

3.3 補語

3.3.1 時量補語

時量補語は、日本語と語順が異なるために注意を要する文法項目のひとつである。日本語では「時間量+目的語+動詞 (1年間中国語を学んだ)」だが、中国語は「動詞+時間量+目的語 (学了一年汉语)」の語順になる。第4課E「最近は毎日2時間半アメリカ音楽を聞きます (最近每天听两个半小时美国音乐)」の正答率は38.5%、語順間違いは7.7%だった。

3.3.2 回数補語

第4課F「私の専攻は中国語なので、毎日10回本文を読まなければなりません (我的专业是汉语、所以每天都要读十遍课文)。」が出題された。「～回」の表現については前述の語彙の問題1.2で述べたので、主に回数補語で重要な語順「動詞+回数+目的語」についてみると、語順ミスは4.4%でかなり少なく、主な間違いが“每天”の位置だったことを考えると、時量補語同様に回数補語の語順についても習得度が比較的高いと思われる。

3.3.3 様態補語

様態補語を使って解答する設問は、第6課E「あなたは英語の歌を歌うのが本当にお上手ですね」、第6課G「(彼女は小さい時から日本のアニメを見て) いま日本語を話すのが非常に流暢です」、第7課F「彼女は洋食を作るのがとても上手で、(私は残さず食べました)」の3問ある。

第6課Eの「あなたは英語の歌を歌うのが本当にお上手ですね。」の解答例は“你(唱)英文歌唱得真好。”である。本論の語彙の問題2.1で述べた「英語の歌」の中国語訳以外での間違いを見ると、補語の部分の程度副詞の“真”を“很”としたものが5.6%、また“很真好”の解答も1例あった。後半の「あなたの方がずっと上手です。」は様態補語と比較の両方を含むので難問である。解答例は“你比我(唱得)好多了”または“你(唱得)比我好多了”、目的語も含めて訳す場合は、“你比我唱英文歌唱得好多了”または“你唱英文歌比我唱得好多了”、“你唱英文歌唱得比我好多了”¹¹、また“好多了”の部分“好得多”としても同じく正解であるため、正答例は理論的には6パターンあるが、こうした目的語を含んだ解答例はなかった。

第6課G「彼女は小さい時から日本のアニメを見て、いま日本語を話すのが非常に流暢です (她从小就看日本的动画片、现在日语说得非常流利)。」の解答をみていくと、やはり補語部分の程度副詞の間違いが多く、“非常”を使わず“很”と解答したのが半数近くの45.6%あった。またこの問題では、前節の主語が“她(彼女)”で、後節の主語が“我(私)”になるというミスが6.7%あった。

第7課F「彼女は洋食を作るのがとても上手で、私は残さず食べました (她西餐做得很好、我都吃光了)。」の解答をみると、“做西餐得真好”のように目的語の後ろに動詞を繰り返していない解答が6.7%あった。またこの問題では後半の“我都吃光了”の“都”がなくても文法上間違いではないので、今回は正答に含めたために正答率が上がったが、“都”がなかった解答が非常に多かった。全体的にみて様態補語の習得度はわりと低いように感じられる。

10 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p21

11 『現代中国語文法総覧』くろしお出版社 p701 『HSK 语法指要与训练』北京大学出版社 p21

表4
 様態補語の解答分析

設問番号	第6課E		第6課G		第7課F	
日本語	あなたは英語の歌を歌うのが本当にお上手ですね。		いま日本語を話すのが非常に流暢です。		彼女は洋食を作るのがとても上手で、私は残さず食べました。	
中国語 模範解答例	你(唱)英文歌唱得真好。		现在日语说得非常流利。”		她西餐做得很好、我都吃光了。	
“得”の前の動詞なし	1	1.1%	1	1.1%	6	6.7%
目的語の間違い	64	71.1%	2	2.2%	3	3.3%
程度副詞等補語の間違い	10	11.1%	49	54.4%	11	12.2%
様態補語を使わない	2	2.2%	7	7.8%	3	3.3%

3.3.4 結果補語

結果補語を含む作文課題は、第7課F「私は残さず食べました(我都吃光了)」、第10課G「宿題は書き終わりましたか(作业写完了吗)?」の2問ある。第7課の“吃光了”の正答率は73.3%¹²であるが、様態補語で述べたように、“都”がないものが半数以上の66.7%あった。一方第10課の“作业写完了吗?”の正答率は97.7%¹³、これは第10課の本文やドリルに同様の問題があるために習得率が高かったと思われる。

表5
 結果補語の解答分析

課題番号	第7課F		第10課G	
日本語	私は残さず食べました。		宿題は書き終わりましたか	
中国語 模範解答例	我都吃光了。		作业写完了吗/ 写完作业了吗	
正答	6	6.7%	84	97.7%
“都”なし	60	66.7%	—	—
結果補語の使用ミス	3	3.3%	0	0%
結果補語を使っていない	3	3.3%	0	0%
補語の後ろの“了”の問題	14	15.6%	0	0%

3.3.5 方向補語

方向補語は、第10課F「誕生日プレゼントは家に持ち帰ってきました(生日礼物带回家来了)」、第10課G「持ってきて私にちょっと見せなさい(拿来给我看看)」の2題出題されている。

第10課F「誕生日プレゼントは家に持ち帰ってきました(生日礼物带回家来了)」で間違いが多かったのは、「持ち帰ってきました(带回家来了)」を、“带回家去了”と解答したのが約29%あった。日本語の「来た」をそのまま“来了”と訳せばいいのに、なぜ“去了”と解答したかはわからない。またこの問題は、“把”構文を習っていない段階なので、目的語の「誕生日プレゼント(生日礼物)」を文頭に置き、「家に持ち帰る」を“带回家来”と表現しなければならない。しかし目的語の「誕生日プレゼント(生日礼物)」を方向補語“来”の後ろに置いた解答が16.3%あった。これは、方向補語の目的語の位置を説明する時に、場所目的語は“来

12 この数値は“吃光了”のみ正しく書けた割合

13 この数値は「宿題は書き終わりましたか(“作业写完了吗?”“写完作业了吗?”)」の正答率

“来/去”の前、物の目的語は“来/去”の後ろと強調し、両者が同時に現れるこの設問のような場面を教えていなかったことに起因する。一方第10課G「持ってきて私にちょっと見せなさい（拿出来给我看看）。」の“拿出来”の正答率は90.1%¹⁴、これは第10課に同じ文があるため¹⁵、正答率が高かったと考えられる。

表6

方向補語の解答分析

課題番号	第10課F		第10課G	
日本語	誕生日プレゼントは家に持ち帰ってきました。		持ってきて私にちょっと見せなさい	
中国語 模範解答例	生日礼物带回家来了。		拿出来给我看看。	
方向補語“来”の使用ミス	27 (“去”)	31.4%	1 (“去”)	1.2%
方向補語“来”を使っていない	6	7.0%	5	5.7%
目的語の位置間違い	16	18.6%	—	—
正解	25	29.1%	78	90.1%

3.4 比較

3.4.1 “比”を使う比較

第5課E「兄は父より2センチ背が高く、私は兄よりさらに高いです（哥哥比爸爸高两公、我比哥哥还高。）。」この作文は、語彙の問題を除くと、文法的に大きな間違いはなかった。

第6課E「いえいえ、あなたの方がずっと上手です（哪里哪里、你比我好多了）。」については3.3.3の様態補語でも述べたが、目的語を書かなくても日本語と同じように中国語に訳して“你比我好多了”または“你比我好得多”を正解とすることができる。この部分を正しく書けたのは前者が11.1%、後者が6.7%だった。

3.4.2 比較の否定“没有”

“没有”を使う比較の否定は作文には出題されておらず、第5課C「このパソコンはあのパソコンほど重くない。」の中国語訳を選ぶ問題に1題出題され、正答率は92.3%だった。

3.4.3 同程度の表現“跟～(不)一样”

第3課F「中国の大学生は日本の大学生と違い、アルバイトをしたがらない人が多いです（中国大学生和日本大学生不一样、很多人不想打工）。」同程度の表現は“跟～(不)一样”しか学んでいないが、“于～不同”を使って解答したのが2.2%、正答率は65.2%だった。

第5課F「日本の漫画は映画と同じくらい面白い。（日本的漫画喝电影一样有意思。）」これも“跟～一样”を使うが、正答率は60.4%、“不比”を使用したのが6例（6.6%）あった。

3.5“是～的”構文

“是～的”構文はステップアップ第3課で学習する。課題作文では第3課E「彼女はアメリカから来たのではなく、カナダから来たのです（她不是从美国来的、（而）是从加拿大来的）。」が出題されている。ここは前述3.2前置詞で主に“从”の使い方を中心に述べたが、“是～的”構文に着目して解答を分析すると、以下の表のようになる。

14 この数値は“拿出来”のみ正しく書けた割合

15 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p50

表7
“是～的”構文の誤答パターン

正解	“不是～的、(而)是～的”	13 (14.1%)
前節に“的”を欠く	“不是～、(而)是～的”	3 (3.3%)
後節に“的”を欠く	“不是～的、(而)是～”	3 (3.3%)
前節後節ともに“的”を欠く	“不是～、(而)是～”	13 (14.1%)
誤答合計		19 (20.7%)

“是～的”構文は、すでに起こったことについて、起こった時間や場所などを取りたてて説明したり聞いたりする時に用いる構文で、“是”は省略できる場合もあるが、この問題のように「～ではなく、～である」と説明する文では“不是～的、(而)是～的”のいずれも欠かせない。にもかかわらず、“的”を欠いた解答が多かったことは、“是～的”構文がかなり習得できていないことが分かる。

3.6 兼語文

兼語文は第11課に2題出題されている。

第11課E「お母さんは息子にゲームをさせず、宿題を書かせます(妈妈不让儿子玩儿游戏、让儿子写作业。)」語彙の問題以外で目立ったのは、使役の意味を表す動詞“让”の後ろの目的語(すなわち兼語)が抜けていたことである。この文の前半は「息子にゲームをさせず」とあるために、「息子」が抜けていた解答はなかったが、後半の「宿題を書かせます」には日本語の「誰に」がないために兼語がない“让写作业”という解答が13.2%あった。日本語には「誰にさせる」という目的語がなくても、中国語では「使役の対象」がないと兼語文が成り立たないことを注意すべきであった。

第11課F「私にちょっと見せて下さい(让我看看吧)」この問題の本来の意図は、“让”を使う兼語表現をみるものであるが、第10課の本文¹⁶に“拿出来给我看看(持ってきて私にちょっと見せなさい。)”という文があるため、“让”ではなく“给”を使って解答したものが約半数の49.5%あった。もちろん“给我看看。”も正解ではあるが、兼語文の習得を見るためには、違った問題にするべきであったと思う。

3.7 受け身文

受け身文は第12課に三題出題されている。E「誰が首相に選ばれたのですか(是谁被选为首相了)?」、F「弟は雨にぬれて風邪をひきました(弟弟被雨淋感冒了)」、G「子どもは学校のパソコンを壊してしまったので、先生に叱られました。(孩子把学校的电脑弄坏了、所以被老师批评了。)」

Fの正答率は31.1%とやや低めではあるが、間違いは主に後半の「今日はバイトしに行けなくなった。」にあり、前半の「弟は雨にぬれて風邪をひきました(弟弟被雨淋感冒了)」の受け身部分の間違いは“感冒”が抜けて“被雨淋了”としたのが2例のみあった。これは教科書の例文やドリル、読解に「雨に濡れて風邪をひいた」という表現が繰り返し出てくるために定着率が高かった。Gの正答率は31.1%で、この問題の間違いも主に前半の「子どもは学校のパソコンを壊してしまった(孩子把学校的电脑弄坏了)」にあり、後半の受け身表現の間違いは動詞の後ろの“了”がなかったのが4例、“了”を“过”としたのが1例、“老师”を“妈妈”と書いたのが3例だった。これも「～に叱られた」という表現が教科書の例文やドリルに出て来たので、よく習得できていたと思う。

16 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』p50

3.8 “把”構文

“把”構文は、第12課のG「子どもは学校のパソコンを壊してしまったので、先生に叱られました。(孩子把学校的电脑弄坏了、所以被老师批评了。)」に出題され、正答率は31.1%だった。教科書のドリルの作文に「子どもはパソコンを壊してしまったので、お母さんに叱られました。(孩子把电脑弄坏了、所以被妈妈批评了。)」と、ほぼ似たような問題があり、そのためか「学校のパソコン(学校的电脑)」を単に「パソコン(电脑)」としたのが21.1%、「先生(老师)」を「お母さん(妈妈)」としたのが3.3%あった。こうした語彙ミス以外で“把”構文自体が理解できていないと思われる誤答は、以下のとおりである。

表8

“把”構文の誤答例

“把”の後ろに動詞を置く	孩子把弄坏学校(的)电脑。	2 (2.2%)
動詞の問題 “了”がない	孩子把学校电脑弄坏。	4 (4.4%)
“坏”がない	孩子把学校电脑弄了。	1 (1.1%)
“弄坏”がない	孩子把学校的电脑了。	1 (1.1%)
“把”を使っていない	孩子弄坏(学校的)电脑(了)。	4 (4.4%)
合計		12 (13.3%)

表の結果より、“把”構文が理解できていないと考えられるのは1割強だった。比較的習得が難しいと考えられている“把”構文であるが、似たような問題がドリルにあったためか、習得度はわりと高かったと思われる。

4 簡体字の問題

ミスが多かった簡体字について、誤答率が高い順に以下の表に示す。

表9

簡体字誤答率

順位	簡体字	日本語漢字	誤答率 (%)
1	着	着	42.2
2	博	博	36.7
3	晚	晚	34.4
4	喝	喝	34.1
5	乐	樂	31.9

間違えやすい簡体字について、筆者は新出単語を教える時に最大フォントの96を使用したPPT画面をZOOMで写し、日本語漢字と対比させて注意を促したが、それでもやはり間違いが多かった。とりわけ“着(着)”や“晚(晚)”は、日本語漢字では2画で書く斜め線を、簡体字では1画で書かなければならないが、いつもの習慣で日本語と同じ漢字を書いた解答が多かった。また“博(博)”や“喝(喝)”のように、日本語漢字と微妙に異なる漢字については、特に重点的に注意を促していく必要がある。

5 まとめ

本論では、ZOOMを使ったオンライン授業中に提出された筆記課題を中心に、学習者が習得できていないと思われる部分を見てきた。単語習得の問題は特に深刻である。初級段階で当然知っておかなければならない単語¹⁷も間違えている例が多く、以前は一課毎に頻繁にやっていた単語テストができなかった状況を痛感した。単語については、単語テストができないオンライン授業の状況であれば、カメラをオンにして単語のディクテーションをやり、それを直ちにブラックボードに提出させる方法などをとることができる。文法は、教科書の本文やドリルなどで繰り返し出る表現はよくできているが、応用になると正答率が下がる。この問題を解消するためには、特に教科書で詳しく説明されていない文法事項¹⁸を洗い出して練習問題を作成する。書かせるだけでなく、一つの文型を準備して単語を替えた口頭の入替え練習をやり、重要な構文については最低3回作文や並び換え等の練習問題をやると定着率が高まると思う。

6 おわりに

オンライン授業は、たとえ双方向であっても、学生一人一人の状況を細かく見ることはできない。教員は課題などで随時学習状況を把握し、指導していかなければならない。外国語学習、特に中国語のように日本人にとっては文字（漢字）で表記した文章は理解しやすいが、聞いてわからない、話せないという弱点をオンライン授業でいかに克服していくかは大きな問題である。立教大学では、筆記課題と交互に毎週録音課題（指定された文を読んで録音し提出する）を課し、担当教員がそれを採点してフィードバックする方式がとられた。学生がそのフィードバックをどれだけ真剣に受けとめたかが重要である。一部には友人と一緒に課題をしたり、筆記の作文課題で翻訳ソフトを使って解答したものなど、見えないからこそその不安要素もある。オンライン授業がいつまで続くかはわからないが、今後再度オンライン授業を実施することになった時に、質の高い教育を提供できるよう今回の経験を総括して問題点を洗い出し、将来のために準備することが大切である。

<参考文献>

- 李偉 管虹 岩田好司著『協同学習で学ぶ中国語ビギニング』三修社 2020
 李偉 管虹 岩田好司著『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』三修社 2020
 杉野元子・黄漢青著『大学生のための初級中国語 40回』教授用資料 白帝社 2013
 劉月華 他著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』くろしお出版社 1996
 相原茂 石田知子 戸沼市子 共著『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社 2008
 葉盼雲 吳中偉編著『外国人学漢語難点積疑』北京语言大学出版社 1999
 彭小川 李守紀 王紅著『対外漢語教学語法積疑 201例』商務印書館 2006
 韓志剛 張文賢編著『HSK 語法指要与訓練』北京大学出版社 2004

17 親族呼称や“上午”などの時間詞

18 助詞“的”をふつう使わない場合や前置詞“从”の使い方など